



## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **11218790 A**(43) Date of publication of application: **10.08.99**

(51) Int. Cl.

**G02F 1/335**  
**H04B 10/02**  
**H04J 14/00**  
**H04J 14/02**

(21) Application number: **10020615**(22) Date of filing: **02.02.98**(71) Applicant: **FUJITSU LTD**

(72) Inventor:  
**OTSUKA KAZUE**  
**ONAKA HIROSHI**  
**CHIKAMA TERUMI**

(54) **OPTICAL BRANCHING/INSERTING DEVICE  
 USING WAVELENGTH SELECTING FILTER AND  
 OPTICAL BRANCHING DEVICE**

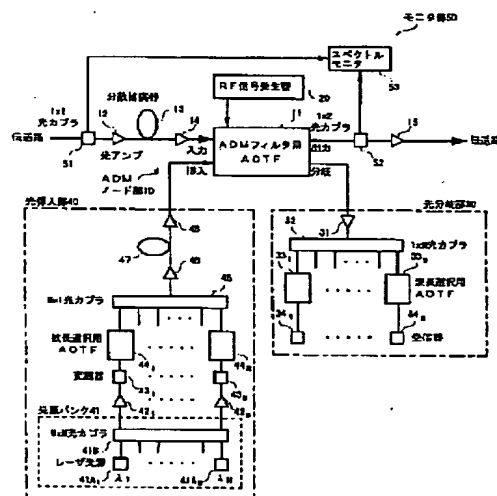
signal light to be inputted/outputted to/from the ADM  
 node part 10.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

(57) Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide an optical branching/inserting device capable of easily managing the wavelength of signal light and branching, inserting or transmitting the signal light having optical number of multiplexing and optically untimeplexed transmitting signal light of optical wavelength by using a wavelength selecting filter utilizing an acoustic-optical effect.

**SOLUTION:** The optical branching/inserting device is composed of an ADM node part 10 having a 4-port ATOF 11 to be a wavelength selecting filter and connected to a transmission line, an RF signal generator 20 for generating an RF signal of an optional frequency band and impressing the RF signal to the AOTF 11, a selected wavelength variable optical branch part 30 for receiving signal light outputted from the branch port of the AOTF 11 in each wavelength, an optical insertion part 40 for generating the optical number of inserting light components of optical wavelength and sending these light components to the insertion port of the AOTF 11, and a monitor part 50 for monitoring the spectrum of each



**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

特開平11-218790

(43) 公開日 平成11年(1999)8月10日

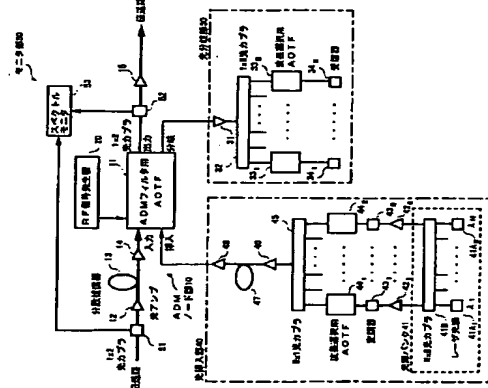
審査請求 未請求 請求項の数18		OL		(全16頁)	
(61) Int. Cl. °		識別記号		FI	
G 0 2 F		I / 335		G 0 2 F	
H 0 4 B		10 / 02		H 0 4 B	
H 0 4 J		14 / 00		U	
		14 / 02		E	
(21) 出願番号		特願平10-20615		(71) 出願人	
		平成10年(1998)2月2日		富士通株式会社	
				神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号	
				(72) 発明者	
				大塚 和恵	
				神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 富士通株式会社内	
				(72) 発明者	
				尾中 寛	
				神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 富士通株式会社内	
				(72) 発明者	
				近岡 輝英	
				神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 富士通株式会社内	
				(74) 代理人	
				弁理士 笹島 富二雄	

(64) 【発明の名称】 波長選択フィルタを用いた光分岐・挿入装置及び光分岐装置

(57) 【要約】

【課題】 音響光学効果を利用した波長選択フィルタを用いることにより、信号光波長の管理が容易で、任意の波長及び任意の多重数の信号光に対して分岐、挿入または透過が可能な光分岐・挿入装置を提供する。

【解決手段】 波長選択フィルタとしての4ポートのAOTF11を有し、伝送路に接続されたADMノード部10と、任意の周波数のRF信号を発生してAOTF11に印加するRF信号発生器20と、AOTF11の分岐ポートから出力された信号光を各波長毎に受信処理する選択波長可変の光分岐部30と、任意の波長及び数の挿入光を生成してAOTF11の挿入ポートに送る光挿入部40と、ADMノード部10に出入力する信号光のスペクトルを監視するモニタ部50と、から構成される。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 波長多重された信号光が伝送される伝送路に接続され、該伝送路上の信号光に対して少なくとも1つの波長の信号光を分岐及び挿入可能な分岐・挿入手段と、該分岐・挿入手段で分岐された信号光を波長毎に受信処理する光分岐手段と、前記伝送路上の信号光に挿入する挿入光を前記分岐・挿入手段に出力する光挿入手段と、を備えた光分岐・挿入装置において、

前記分岐・挿入手段が、少なくとも1つの周波数の弾性表面波を選択信号に対して発生可能であり、前記伝送路から受信した信号光が入力される入力ポート、前記伝送路へ出力する信号光が出力される出力ポート、前記光分岐手段に接続する分岐ポート及び前記光挿入手段に接続する挿入ポートを有する波長選択フィルタを含み、

該波長選択フィルタは、前記選択信号が印加され、前記入力ポートに送られた前記伝送路からの信号光に含まれる前記弾性表面波の周波数に対応した波長の信号光を分岐して前記分岐ポートに出力するとともに、前記弾性表面波の周波数に対応した波長を有する前記挿入ポートに送られた挿入光を前記伝送路からの信号光に挿入して前記出力ポートに出力する構成としたことを特徴とする波長選択フィルタを用いた光分岐・挿入装置。

【請求項2】 波長多重された信号光が伝送される伝送路に接続され、該伝送路上の信号光に対して少なくとも1つの波長の信号光を分岐及び挿入可能な光分岐・挿入装置において、

分岐された信号光を波長毎に受信処理する光分岐手段と、前記伝送路上の信号光に挿入する挿入光を発生する光挿入手段と、

選択信号に応じた周波数の弾性表面波を少なくとも1つ発生可能であり、前記伝送路から受信した信号光が入力される入力ポート、前記伝送路へ出力する信号光が出力される出力ポート、前記光分岐手段に接続する分岐ポート及び前記光挿入手段に接続する挿入ポートを有する波長選択フィルタと、を備え、

該波長選択フィルタは、前記入力ポートに送られた前記伝送路からの信号光に含まれる前記弾性表面波の周波数に対応した波長の信号光を分岐して前記分岐ポートに出力するとともに、前記弾性表面波の周波数に対応した波長を有する前記挿入ポートに送られた挿入光を前記伝送路からの信号光に挿入して前記出力ポートに出力する構成としたことを特徴とする波長選択フィルタを用いた光分岐・挿入装置。

【請求項3】 波長多重された信号光が伝送される伝送路に接続され、該伝送路上の信号光のうち少なくとも1つの波長の信号光を分岐可能な光分岐装置において、分岐された信号光を波長毎に受信処理する光分岐手段と、

選択信号に応じた周波数の弾性表面波を少なくとも1つ

(2)

特開平11-218790

2

発生可能であり、前記伝送路から受信した信号光が入力される入力ポート、前記伝送路へ出力する信号光が出力される出力ポート及び前記光分岐手段に接続する分岐ポートを有する波長選択フィルタと、を備え、

該波長選択フィルタは、前記入力ポートに送られた前記伝送路からの信号光に含まれる前記弾性表面波の周波数に対応した波長の信号光を分岐して前記分岐ポートに出力する構成としたことを特徴とする波長選択フィルタを用いた光分岐装置。

【請求項4】 波長多重された信号光が伝送される伝送路に接続され、該伝送路上の信号光に対して少なくとも1つの波長の信号光を分岐及び挿入可能な分岐・挿入手段と、該分岐・挿入手段で分岐された信号光を波長毎に受信処理する光分岐手段と、前記伝送路上の信号光に挿入する挿入光を前記分岐・挿入手段に出力する光挿入手段と、を備えた光分岐・挿入装置において、

前記分岐・挿入手段が、少なくとも1つの周波数の弾性表面波を選択信号に対して発生可能であり、前記伝送路から受信した信号光が入力される入力ポート、前記伝送路へ出力する信号光が出力される出力ポート及び前記光分岐手段に接続する分岐ポートを有する波長選択フィルタと、前記出力ポートから出力される信号光に前記挿入手段からの挿入光を合波して前記伝送路に出力する光合波部と、を含み、

前記波長選択フィルタは、前記選択信号が印加され、前記入力ポートに送られた前記伝送路からの信号光に含まれる前記弾性表面波の周波数に対応した波長の信号光を分岐して前記分岐ポートに出力し、他の波長の信号光を前記出力ポートに出力する構成としたことを特徴とする波長選択フィルタを用いた光分岐・挿入装置。

【請求項5】 波長多重された信号光が伝送される伝送路に接続され、該伝送路上の信号光に対して少なくとも1つの波長の信号光を分岐及び挿入可能な光分岐・挿入装置において、

分岐された信号光を波長毎に受信処理する光分岐手段と、

前記伝送路上の信号光に挿入する挿入光を発生する光挿入手段と、

選択信号に応じた周波数の弾性表面波を少なくとも1つ発生可能であり、前記伝送路から受信した信号光が入力される入力ポート、前記伝送路へ出力する信号光が出力される出力ポート、前記光分岐手段に接続する分岐ポートを有する波長選択フィルタと、

前記出力ポートから出力される信号光に前記光挿入手段からの挿入光を合波して前記伝送路に出力する光合波部と、を備え、

前記波長選択フィルタは、前記選択信号が印加され、前記入力ポートに送られた前記伝送路からの信号光に含まれる前記弾性表面波の周波数に対応した波長の信号光を分岐して前記分岐ポートに出力し、他の波長の信号光を

50

前記出力ポートに出力することを特徴とする波長選択フィルタを用いた光分岐・挿入装置。

【請求項6】前記伝送路に出力する信号光を送信に必要なパワーレベルまで増幅する少なくとも1つの光増幅手段を備えて構成された特徴とする請求項1～5のいずれか1つに記載の波長選択フィルタを用いた装置。

【請求項7】前記伝送路の分散特性を補償する分散補償手段と、該分散補償手段における信号光パワーの損失を補償する分散補償用光増幅手段と、を備えて構成された特徴とする請求項1～6のいずれか1つに記載の波長選択フィルタを用いた装置。

【請求項8】前記光分岐手段は、前記波長選択フィルタの分岐ポートから出力される信号光を受信波長数に応じて分岐する光分岐部と、該光分岐部の各出力ポート毎に設けられ、分岐された信号光から1つの波長光を選択し出力する選択波長可変の波長選択部と、該波長選択部で選択された波長光を受信処理する受信部と、を含むことを特徴とする請求項1～7のいずれか1つに記載の波長選択フィルタを用いた装置。

【請求項9】前記光挿入手段は、前記伝送路上で伝送可能なすべての波長に対応した光を発生する光源部と、該光源部からの各波長光を合波した波長多重光を挿入波長数に応じて分岐して出力する光合分岐部と、該光合分岐部から出力された各波長多重光毎に監視する出力波長部と、該挿入波長可変の波長選択部から出力される信号光を合波して前記波長選択フィルタの挿入ポートに出力する光増幅部と、を含むことを特徴とする請求項1、2、4～8のいずれか1つに記載の波長選択フィルタを用いた装置。

【請求項10】前記光挿入手段は、前記伝送路の分散特性を補償する分散補償部と、該分散補償部における光パワーの損失を補償する分散補償用光増幅部と、を含むことを特徴とする請求項9記載の波長選択フィルタを用いた光分岐・挿入装置。

【請求項11】前記光挿入手段は、前記光源部から前記光合分岐部に、挿入可能な波長光のみを送る光源制御部を含むことを特徴とする請求項9または11記載の波長選択フィルタを用いた光分岐・挿入装置。

【請求項12】前記光挿入手段は、前記挿入波長可変の波長選択部から前記伝送路に、実際に挿入する波長の信号光のみを送る挿入光制御部を含むことを特徴とする請求項9～11のいずれか1つに記載の波長選択フィルタを用いた光分岐・挿入装置。

【請求項13】前記伝送路から前記波長選択フィルタに入力される信号光のスペクトル及び前記波長選択フィルタから前記伝送路に出力される信号光のスペクトルをそれぞれ測定して、各波長毎の光パワーを監視するモニタ手段を含んで構成されたことを特徴とする請求項1～11のいずれか1つに記載の波長選択フィルタを用いた装置。

【請求項14】前記選択信号は、周波数及び出力パワーの少なくとも一方が前記モニタ手段の監視結果に応じて調整され、前記波長選択フィルタは、出力ポートから出力される各波長の信号光パワーが前記選択信号に応じて略一定に制御される構成としたことを特徴とする請求項1～13記載の波長選択フィルタを用いた装置。

【請求項15】前記光挿入手段は、前記モニタ手段から出力される各波長の信号光パワーを前記モニタ手段の監視結果に応じて調整するパワー調整部を含むことを特徴とする請求項1～14記載の波長選択フィルタを用いた装置。

【請求項16】前記選択信号は、前記伝送路から前記波長選択フィルタに入力される信号光に含まれない未使用波長光に対応する周波数有することを特徴とする請求項1～15のいずれか1つに記載の波長選択フィルタを用いた装置。

【請求項17】前記波長選択フィルタのデバイス温度を略一定に制御する温度制御手段を含んで構成されたことを特徴とする請求項1～16のいずれか1つに記載の波長選択フィルタを用いた装置。

【請求項18】前記波長選択フィルタのデバイス温度を測定する温度モニタ手段を含み、前記選択信号の周波数、前記温度モニタ手段の測定結果に基づいて補正されることを特徴とする請求項1～17のいずれか1つに記載の波長選択フィルタを用いた装置。

【請求項19】前記波長選択フィルタのデバイス温度を略一定に制御する温度制御手段を含んで構成されたことを特徴とする請求項1～18のいずれか1つに記載の波長選択フィルタを用いた装置。

メーメント前後の波長間隔のWDM伝送システムの実験が報告され、また、実システムとして導入されようとしている。

【0003】さらに、このWDM伝送システムを基にして、光ネットワークを実現することが最近の研究の動向になっている。この光ネットワークとしては、例えば、特開平4-167634号公報等で提案されているように、WDM信号をポイントからポイントへ送信するだけでなく、伝送路の途中に設けられたノードと呼ばれる中継点で、波長多重された信号光のうちの特定の波長の信号光だけを選択的に透過させ、それ以外の波長の信号光をそのノードで受信したり、このノードから別の信号光を挿入して、他のノードへ送信したりすることである。ADM(Add-Drop Multiplexer)機能を持つネットワークが挙げられる。このADM機能は、信号光の状態のまま自由に分岐、挿入でできることが特徴であり、WDM方式に特有の技術である。

【0004】従来の光分岐・挿入装置(以下、ADMノード装置とする)としては、例えば、図8に示すように、アレイ導波路格子(Arrayed Waveguide Grating:以下AWGとする)を2つ組み合わせで構成したものなどがある。このAWGは、光合波または光分岐機能を持つデバイスで、入力ポートに波長多重信号光が入力されると、出力側では波長毎に分岐された信号光が各ポートから出力される。また逆に、AWGは、各ポートにそれぞれ対応して予め決められた波長の光を入力すると、出力側でこれらが合波された波長多重信号光が出力される。このようなAWGを用いて構成したADMノード装置

は、1段目(入力側)のAWGで多重信号光を波長毎に分岐し、各波長に対して分岐、挿入または透過をそれぞれ制御し、2段目(出力側)のAWGによって再び各波長の信号光を合波して、伝送路に送信することになる。任意の波長の信号光の分岐、挿入または透過の制御は、例えば、1段目のAWGの各出力ポートに光スイッチ等

【0005】このような従来のADMノード装置では、AWGの透過波長特性が、伝送に用いる多重信号光の各波長に対応させて予め設計される。また、AWGの各ポートへの入力波長特性や出力波長特性は、任意ではな

【0006】【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来のADMノード装置では、波長多重数が増大する程、各ポート毎の信号光波長の管理が煩雑になるとともに、そのノード構成も複雑になってしまふ。また、設計段階において、ADMノード装置の使用波長や最大波長数が

予め決められるため、その後の使用波長の変更や信号増設等には対応しにくいという欠点がある。さらに、従来のADMノード装置は、透過特性について波長に対して周期的な変動を持ったため、ADMノードを多段に接続して使用するリングネットワーク等では、例えば、光減衰器などを用いて各波長毎の光パワーの補正を行う等の対策が必要となるといった問題もある。

【0007】ところで、各ポート毎の信号光波長の管理を容易にする1つの手段として、ADMフィルタに音響光学ファイナを用いたADMノード構成は、例えば、特開平9-113855号公報等で提案されている。前記の技術は、ADMノードに音響光学フィルタ等を使用したときに発生する、分岐光と挿入光との干渉による信号劣化を防ぐために、分岐光と挿入光の周波数をずらすことにより干渉雑音を抑制しようとするものである。

【0008】しかし、上記のADMノード構成では、分岐挿入波長の変更や信号増設等のために煩雑な作業を要するとともに、周波数をずらした挿入光が各ADMノードで主信号光に合波されて伝送されるため、伝送システムの波長多重数が多くなるにつれてシステム全体の信号光波長の管理が複雑になるという問題がある。本発明は上記の点に着目してなされたもので、音響光学効果を

【0009】【課題を解決するための手段】このため本発明の1つの態様では、波長多重された信号光が伝送される伝送路に接続され、該伝送路上の信号光に対して少なくとも1つの波長の信号光を分岐及び挿入可能な分岐・挿入手段と、該分岐・挿入手段で分岐された信号光を波長毎に受信処理する光分岐手段と、前記伝送路上の信号光に挿入する挿入光を前記分岐・挿入手段に出力する光挿入手段と、を備えた光分岐・挿入装置において、前記分岐・挿入手段が、少なくとも1つの周波数の弾性表面波を選択信号に対応して発生可能であり、前記伝送路から受信した信号光が入力される入力ポート、前記伝送路へ出力する信号光が出力される出力ポート、前記光分岐手段に接続する分岐ポート及び前記光挿入手段に接続する挿入ポートを有する波長選択フィルタを含み、該波長選択フィルタは、前記選択信号が印加され、前記入力ポートに送られた前記伝送路からの信号光に含まれる前記弾性表面波の周波数に対応した波長の信号光を分岐して前記分岐ポートに出力するとともに、前記弾性表面波の周波数に対応した波長を有する前記挿入ポートに送られた挿入光を前記伝送路からの信号光に挿入して前記出力ポートに出力する構成としたものである。

【0010】また、別の態様では、波長多重された信号



【0025】ADMノード部10は、例えば、ADMファイ  
ルタとして用いられる音響光学効果を利用した波長選択  
フィルタ (Acousto-Optic Tunable Filter; 以下AOT  
Fとする) 11と、光増幅手段としての光アンプ12、15  
と、分岐補償手段としての分岐補償器13と、分岐補償用  
増幅手段としての光アンプ14を備える。AOTF11は、  
入力、出力、挿入及び分岐の4つのポートを有する。入  
力ポートには、伝送路を伝わる波長多重信号光が、後述  
する光カブラ51並びに光アンプ12、分岐補償器13及び光  
アンプ14を介して入力される。光アンプ12は、伝送され  
てきた信号光を一括して増幅する広帯域光増幅器であ  
る。分岐補償器13は、伝送路の分散特性による信号光の  
伝送特性への影響を補償するための分岐補償デバイスで  
あり、光アンプ14は、分岐補償器13での光パワーの損失  
を補償するためのものである。これら分岐補償器13及び  
光アンプ14は、伝送路の分散特性が大きい場合に必要に  
応じて、ADMノード部10の適宜な位置に設けられる。  
AOTF11の出力ポートから出力される信号光は、後述  
する光カブラ52及び光アンプ15を介して伝送路に送られ  
る。光アンプ15は、出力信号光を伝送に最適なパワーま  
で増幅して伝送路に出力する。また、分岐ポートから出  
力される信号光は後述する光分岐部30に送られ、挿入ポ  
ートには後述する光挿入部40から出力される信号光が入  
力される。

【0026】ここで、AOTF11について具体的に説明  
する。AOTF11は、波長選択フィルタとして有効なデ  
バイスであり、その構成には様々な種類のものがある。  
一般には、弾性表面波 (SAW) と光の導波路とがオー  
バーラップし、両者の干渉により導波路内の一部の波長  
の光のみが屈光変換を受け、その屈光された光をフィル  
タ出射端のスプリットで分離することにより、特定の波  
長の光を取り出すことができるものである。

【0027】図2は、AOTF11の構成の一例を示す。  
図2の構成では、交差指型電極 (IDT) にRFF信号を  
印加することによって弾性表面波 (SAW) が発生して  
SAWクラッド層を伝搬する。また、波長多重された信  
号光が、入力ポートより入射して、図で左側の屈光ビー  
ムスプリッター (PBS) で屈光分離されて2つの導波  
路に分岐される。そして、TE-TMモード変換部に入  
射した信号光は、前記SAWと干渉して、RFF信号の周  
波数に応じた波長の信号光の屈光状態が変換される。偏  
光変換された信号光は、図で右側のPBSにより屈光分  
離されて、選択光を出力する分岐ポートから出力され  
る。他の波長の信号光は、非選択光を出力する出力ポー  
トから出力される。上記SAWの周波数と選択光の波長  
とは、デバイスの温度が一定の状態では1対1の関係が  
ある。したがって、印加するRFF信号の周波数を変化さ  
せれば、選択光の波長もそれに伴って変化する。これに  
より、波長可変の光フィルタが実現できる。

【0028】また、RFF信号の周波数に応じた波長の

される。

【0031】光挿入部40は、例えば、光源バンク41、光  
アンプ42、～42<sub>m</sub>、変調器43、～43<sub>n</sub>、波長選択用AO  
TF44、～44<sub>m</sub>、光合波部としての光カブラ45、光アン  
プ46、分岐補償部としての分岐補償器47及び分岐補償用  
光増幅器としての光アンプ48を備える。この光挿入部40  
は、任意の波長で任意の数の信号光の挿入に対応でき  
るようにするために、伝送システムで使用するすべての波  
長 (λ1～λN) の信号光を任意に選択して出力する機  
能が必要である。例えば、送信すべき情報量が最大でM個  
ある場合に、それぞれ別の情報を任意の波長の光に載せ  
て送出できることが必要である。したがって、光挿入部40  
の各変調器の入力ポートに送られる光には、波長の任意  
性が求められる。

【0032】このため、上記光源バンク41は、使用され  
る各波長λ1～λNに対応したN個のレーザ光源41A、  
～41Anと、各波長λ1～λNの光を合波して必要な信  
号光数Mまで分岐するN×M光カブラ41Bと、を有する  
WDM光源とする。ここでは、光源バンク41が光源部及  
び光合波部として機能する。光アンプ42、～42<sub>m</sub>は、  
光カブラ41Bの各出力ポート毎に設けられ、波長多重さ  
れた光のパワーを所要のレベルまで増幅する。

【0033】変調器43、～43<sub>n</sub>は、送信すべき情報を光  
アンプ42、～42<sub>m</sub>からの光に与える外部変調器である。  
変調器43、～43<sub>n</sub>では、M個の送信情報のうちの1つ  
が波長λ1～λNの光すべてに載せられる。波長選択用  
AOTF44、～44<sub>m</sub>は、変調器43、～43<sub>n</sub>で変調された  
波長λ1～λNを含んだ信号光のうちから任意の波長の  
信号光を選択できる波長可変のバンドパスフィルタであ  
る。ここでは、変調器43、～43<sub>n</sub>及び波長選択用AOT  
F44、～44<sub>m</sub>が挿入光生成部として機能する。なお、こ  
で用いる各波長選択用AOTF44、～44<sub>m</sub>について  
も、上記光分岐部30で用いるAOTF33、～33<sub>m</sub>と同様  
はなく、また、AOTFに限らず選択波長がチューナブ  
ルな他のデバイスを使用することもできる。さらに、波  
長選択用AOTF44、～44<sub>m</sub>の接続位置は、ここでは変  
調器43、～43<sub>n</sub>の後段としたが、これに限らず、例えば  
光源バンク41の各出力ポートと各光アンプ42、～42<sub>m</sub>と  
の間などに配置してもよい。

【0034】光カブラ45は、各波長選択用AOTF44、  
～44<sub>m</sub>で選択された信号光を1つの信号光に波長多重し  
て出力するM×1光カブラである。光アンプ46は、光カ  
ブラ45からの出力光をADMノード部10に挿入可能なパ  
ワーまで増幅する。また、分岐補償器47及び光アンプ48  
は、前述したADMノード部10の分岐補償器13及び光ア  
ンプ14と同様に、伝送路の分散特性等を補償するために  
必要に応じて設けられる。

【0035】モニタ部50は、光カブラ51、52及びスベク  
トルモニタ53を有する。光カブラ51は、例えば、ADM

ノード部10の光アンプ12の前段等に設けられ、伝送路か  
らADMノード部10に入力される信号光の一部を分岐し  
てスベクトルモニタ53に送る。また、光カブラ52は、例  
えば、AOTF11の出力ポートの後段等に設けられ、出  
力ポートから出力される信号光の一部を分岐してスベク  
トルモニタ53に送る。スベクトルモニタ53は、光カブラ  
51、52で分岐された各信号光のスベクトルを測定して波  
長に対する光パワーを監視する。このスベクトルモニタ  
53によって、ADMノード部10への入力信号光が正規の  
状態であるか、ADMノードの動作が正常であるかなど  
が監視される。

【0036】次に、第1の実施形態の動作について説明  
する。伝送路を伝わる波長多重信号光は、線形中継器を  
兼ねたADMノード装置に入力されて、まず、その一部  
が光カブラ51で分岐される。分岐信号光は、スベクトル  
モニタ53に送られて、そのスベクトルが測定される。こ  
の測定結果を基に、伝送路を伝わってADMノード装置  
に到達した信号光が正規の波長光 (チャネル) を含み、  
各波長光のパワーが所要のレベルにあるか否かが監視さ  
れる。

【0037】伝送路からの信号光が正規の状態にあると  
判断されると、光カブラ12を通して信号光は、光アンプ  
12に送られて増幅された後に、分岐補償器13に送られ  
て、伝送路の分散特性の影響を補償するための処理が行  
なわれる。分岐補償された信号光は、分岐補償器13で  
ロスを補償するために光アンプ14で増幅されて、AOT  
F11の入力ポートに送られる。

【0038】AOTF11には、RFF信号発生器20で発生  
したRFF信号が印加されていて、入力ポートに送られた  
信号光がAOTF11を通過することで、弾性表面波の周  
波数に対応した波長の信号光が入力信号光から分離され  
て分岐ポートから出力される。またこれと同時に、AO  
TF11の挿入ポートには、光挿入部40で発生した挿入光  
が送られ、その挿入光は、AOTF11を通過することで  
入力ポートからの信号光に合波されて出力光として出力  
ポートから出力される。なお、光挿入部40の動作につい  
ては後述する。

【0039】このときの挿入光の波長は、AOTF11に  
印加されるRFF信号の周波数に応じて決まる。このた  
め、基本的には、分岐する信号光の波長と同じ波長の信  
号光が挿入されることになる。ただし、異なる波長の信  
号光を分岐、挿入することも可能である。例えば、入力  
ポートへの信号光が波長λ1、λ2を除いた波長λ3～  
λNの光を含み、本ADMノードにおいて、波長λ3、  
λ4の信号光を分岐し、波長λ1、λ2の信号光を挿入  
するような場合には、各波長λ1～λ4に対応する周波  
数のRFF信号をAOTF11に印加しておき、光挿入部40  
からは波長λ1、λ2の信号光のみを挿入ポートに送る  
ようにする。また、分岐する信号光の数と挿入する信号  
光の数は、回数に限らず異なっても構わない。

【0040】AOTF11の出力ポートから出力された信号光は、その一部が光カプラ52で分岐されてスペクトルモニタ53に送られる。スペクトルモニタ53では、その分岐光のスペクトルが測定されて、このADMノードにおける信号光の分岐、挿入または透過が正常に行なわれたか否かが判断される。正常と判断されると、出力ポートからの出力光は、光カプラ52を通して光アンプ15に送られて、伝送に原価をパワーまで増幅された後に伝送路に送られる。

【0041】AOTF11の分岐ポートから出力された信号光は、分光部30の光アンプ31に送られ、所望のパワーまで増幅される。増幅された分岐光は、光カプラ32に送られてM個の信号光に分岐される。M分岐された各信号光は、ADMノード部10で選択された各波長光を含んだものであるで、そのうちの1波長の信号光を選択するために波長選択用AOTF33、～33<sub>m</sub>に送られる。各波長選択用AOTF33、～33<sub>m</sub>は、図示しないが印加されるRFF信号の周波数に対応する受信器34、～34<sub>m</sub>の受信波長に応じて調整されていて、受信器34、～34<sub>m</sub>の受信波長に一致する波長の信号光のみを分岐ポートから出力する。このようにして選択された各波長の信号光は、それぞれの受信器34、～34<sub>m</sub>によって受信処理される。

【0042】光挿入部40では、光源バンク41の各レーザ光源41A、～41A<sub>m</sub>より波長 $\lambda 1 \sim \lambda N$ の光が放射され、各波長光は、光カプラ41Bによって波長多重化され、さらにM個の信号光に分岐されて光源バンク41から出力される。波長多重化された各信号光は、それぞれ光アンプ42、～42<sub>m</sub>で増幅された後に変調器43、～43<sub>m</sub>に送られて、それぞれ変調器43、～43<sub>m</sub>毎に各波長 $\lambda 1 \sim \lambda N$ の光が一括して変調される。各変調器43、～43<sub>m</sub>で変調された信号光は、波長 $\lambda 1 \sim \lambda N$ のうちの特定の波長成分のみを選択するために、波長選択用AOTF44、～44<sub>m</sub>にそれぞれ送られる。各波長選択用AOTF44、～44<sub>m</sub>は、印加されるRFF信号の周波数が送信すべき信号光の波長に応じて調整されていて、そのRFF信号に対応する波長の信号光のみを分岐ポートから出力する。各波長選択用AOTF44、～44<sub>m</sub>の分岐ポートから出力された信号光は、光カプラ45に送られて、1つの信号光に合波される。そして、光カプラ45からの出力光は、光アンプ46で増幅された後に、分散補償器47及び光アンプ48を通して伝送路の分散特性等を補償する処理が施されて、AOTF11の挿入ポートに送られる。

【0043】このように第1の実施形態によれば、ADMフィルタとしてAOTF11を使用することによって、従来のAWG等を用いたADMノード装置のように、伝送路からの波長多重信号光に含まれるすべての波長の信号光を分離する必要がなくなり、ADMノードで分岐または挿入が必要な波長の信号光だけを分岐または合波することができる。これにより、多数の光ファイバやデバイスを使用することのない簡潔な構成で小型化のAD

部40から出力された挿入光が他方の入力ポートに入力される。そして、入力された出力光及び挿入光が合波され、後に2分岐されて、その一方の信号光が光アンプ15を介して伝送路に送られる。また、他方の信号光は、スペクトルモニタ53に送られてそのスペクトルが測定される。

【0049】このように第2の実施形態によっても、第1の実施形態の効果と同様に、任意波長及び任意数の信号光を分岐、挿入または透過することが可能な、伝送特性の優れたADMノード装置を提供することができる。また、第2の実施形態では、ADMフィルタ用のAOTF11'の構成が1ポート入力、2ポート出力の3つのポート構成になり、4つのポート構成のAOTF11を用いる場合よりも装置構成が簡易になる利点がある。さらに、AOTF11'への入力信号光に含まれない波長光に対応する周波数のRFF信号をAOTF11'に印加することによって、雑音の影響が低減されるため、伝送特性の一層の向上を図ることができる。

【0050】次に、第3の実施形態について説明する。第3の実施形態では、ADMノードにおいて信号光のパワーを制御するとともに、AOTFの温度変化による波長変動を防止する機能を備えた場合を説明する。図4は、第3の実施形態のADMノード装置の構成例を示す。この構成は、第1の実施形態のADMノード装置(図1)について上記の機能を付加したものである。ただし、図1に示した構成と同一の部分には同じ符号を付してその説明を省略する。

【0051】図4において、本ADMノード装置の構成が第1の実施形態の構成と異なる部分は、スペクトルモニタ53の測定結果に基づいたRFF制御信号がスペクトルモニタ53からRFF信号発生器20に送られるとともに、AOTF11の温度を一定に制御する温度制御手段としての温度制御部11Aを設けた部分である。上記以外の部分は第1の実施形態の構成と同一である。

【0052】一般にWDM方式の光伝送では、各波長の信号光パワーが略一定のレベルで伝送されることが必要である。このため本ADMノード装置では、各光カプラ51、52からの信号光のスペクトルをスペクトルモニタ53で測定して、各波長の信号光パワーが略一定であるかを判断する。各波長の信号光パワーにばらつきがある場合は、スペクトルモニタ53が、そのばらつきを補正するRFF制御信号を発生してRFF信号発生器20に送る。RFF信号発生器20では、RFF制御信号に従って、AOTF11に印加するRFF信号の周波数または出力パワー(振幅)が調整される。具体的には、例えば、波長 $\lambda 1$ の信号光パワーが他の波長の信号光パワーに比べて大きいときは、RFF信号発生器20が、波長 $\lambda 1$ に対応する周波数のRFF信号を、各信号光のポート一帯に対応した出力パワーで発生してAOTF11に印加する。これにより、AOTF11では、波長 $\lambda 1$ の信号光がRFF信号の出力パワー

一に応じて分岐され、出力光に含まれる波長 $\lambda 1$ の信号光パワーが調整されて、各波長の信号光パワーが略一定値に制御される。

【0053】また、上述したようにAOTFの選択波長は、印加するRFF周波数とデバイス温度によって一様的に決まる。しかしながら、AOTFが使用される環境によつてはその温度が大きく変わり、同じRFF信号を印加しても選択波長の再現性が保証されないことが起こる。例えば、選択波長の温度依存性については、およそ0.76nm/°Cであるという報告等がされている。この温度依存性の影響を無くすために、ここでは温度制御部11Aが設けられる。この温度制御部11Aは、AOTF11の温度を環境の変化に関係なく略一定に制御するものである。なお、図示しないが、分光部30及び光挿入部40にそれぞれ設けられた各波長調整用AOTF33、～33<sub>m</sub>、44、～44<sub>m</sub>についても、同様の温度制御部を設けるものとす

る。

【0054】このように第3の実施形態によれば、スペクトルモニタ53の測定結果を基にAOTF11に印加するRFF信号の周波数または出力パワーを調整することによって、本ADMノード装置から伝送路に送られる各波長の信号光パワーが略一定値に制御されるため、安定したWDM方式の光伝送が可能である。また、AOTFの温度を略一定に制御することによって、波長多重信号光の波長管理をより正確に行なうことができる。

【0055】次に、第4の実施形態について説明する。第4の実施形態では、上記第3の実施形態の場合と同様の機能を、第2の実施形態のADMノード装置(図3)に付加した場合を説明する。図5は、第4の実施形態のADMノード装置の構成を示す。ただし、図3に示した構成と同一の部分には同じ符号を付してその説明を省略する。

【0056】図5において、本ADMノード装置では、スペクトルモニタ53の測定結果に基づいて、RFF制御信号がRFF信号発生器20に送られるとともに、光挿入部40の各光アンプ42、～42<sub>m</sub>の光増幅動作を制御するパワー調整部としての光アンプ駆動回路42Aに、挿入光パワー制御信号が送られる。また、AOTF11の温度を測定する温度モニタ手段としての温度モニタ11BがAOTF11'に設けられ、測定された温度情報がRFF信号発生器20に送られる。なお、図示しないが分光部30及び光挿入部40にそれぞれ設けられた各波長調整用AOTF33、～33<sub>m</sub>、44、～44<sub>m</sub>についても、温度モニタを設けるものとする。上記以外の第4の実施形態の構成は、第2の実施形態の構成と同一である。

【0057】スペクトルモニタ53では、各光カプラ51、52'からの信号光のスペクトルが測定され、各波長の信号光パワーが略一定であるか否かが判断される。各波長の信号光パワーにばらつきがある場合には、そのばらつきを補正するRFF制御信号及び挿入光パワー制御信号



が、RF信号発生器20及び光アンプ駆動回路42Aに送られる。RF信号発生器20には、スペクトルモニタ53からのRF制御信号に加えて、AOTF11'の温度を示す情報で温度モニタ11Bから送られる。

【0058】RF信号発生器20は、AOTF11'の温度情報を基にAOTF11'の選択波長とRF信号の周波数との関係を補正した上で、上記第3の実施形態のと同様に、RF制御信号に応じたRF信号の周波数または出力パワーを調整してAOTF11'に印加する。これによりAOTF11の出力パワーが制御される。また、光アンプ駆動回路42Aは、挿入光パワー制御信号に従って各光アンプ42<sub>1</sub>、～42<sub>m</sub>の光増幅動作を調整して、光挿入部40から出力される各波長光のパワーを制御する。そして、各波長光のパワーが制御された、AOTF11'からの出力光及び光挿入部40からの挿入光が、光カブラ52'で合波されて、各波長光が略一定値に制御された信号光が伝送路に送られるようになる。

【0059】このように第4の実施形態によっても、第3の実施形態と同様に、伝送路に送られる各波長の信号光パワーが略一定値に制御されるため、安定したWDM方式の光伝送が可能であり、また、AOTFのデバイス温度をモニタしてRF信号の周波数を補正することで、多量信号光の波長管理をより正確に行なうことができる。

【0060】なお、上述した第3、4の実施形態では、AOTF11、11'への印加RF信号や、光挿入部40の光アンプ42<sub>1</sub>、～42<sub>m</sub>の光増幅動作を制御することで、各波長の信号光パワーのばらつきを調整するようにしたが、このような構成以外にも、例えば、ADMノード部10の出力側の光アンプ15の動作条件を制御する構成なども考えられる。この場合、光アンプ15で増幅する波長光数が変化すると光アンプ15の動作特性が変化してしまう可能性があるが、波長光数と光アンプ15の動作特性の関係が予めわかれば、波長光数の変動にともなう光アンプ15の動作特性変動を補正することができる。例えば、波長光数の情報を光アンプ15に転送し、この情報に基づいて光アンプ15の起動パワー等を制御すればよい。

【0061】また、第3の実施形態では温度制御器を設け、第4の実施形態では温度モニタを設けたが、もちろん、第3の実施形態に温度モニタ、第4の実施形態に温度制御器を設けても構わない。次に、第5の実施形態について説明する。第5の実施形態では、上述した各実施形態の光挿入部40におけるコヒーレントクロストークの発生を抑制する機能を備えた場合を説明する。

【0062】図6は、本実施形態の光挿入部の構成例を示す。ただし、上述した各実施形態の光挿入部40と同一の構成部分には、同じ符号を付してその説明を省略する。図6において、本ADMノード装置の光挿入部40'では、各レーザ光源41A<sub>1</sub>、～41A<sub>m</sub>とN×M光カブラ41Bとの間に光源制御部としてのゲートスイッチ41C<sub>1</sub>、～41C<sub>M</sub>

信号光の伝送特性の劣化を防ぐことができる。なお、上記第5の実施形態では、ゲートスイッチ41C<sub>1</sub>、～41C<sub>M</sub>を設けて不要な波長光を遮断するようにしたが、これに限らず、例えば、各レーザ光源の41A<sub>1</sub>、～41A<sub>m</sub>の駆動電流を直接制御して不要な波長光を遮断しても構わない。

【0067】また、波長選択用AOTF44<sub>1</sub>、～44<sub>m</sub>で波長光の光をあるレベル以下に抑圧できる場合には、波長選択用AOTFを2段構成とするのに代えて、例えば、図7の光挿入部40'に示すように、各変調器43<sub>1</sub>、～43<sub>m</sub>の前後等にゲートスイッチや可変減衰器などを設けて不要な波長の信号光を遮断するようにしても、コヒーレントクロストークの発生を防止できる。図7では波長選択用AOTF44<sub>1</sub>、～44<sub>m</sub>を各変調器43<sub>1</sub>、～43<sub>m</sub>の後段に配置した場合を示したが、AOTF44<sub>1</sub>、～44<sub>m</sub>は、各変調器43<sub>1</sub>、～43<sub>m</sub>の前後段のいずれに配置しても構わない。【0068】さらに、光源バンク41'は、図6に示した構成に限らず、例えば、図7の光源バンク41'のように、各レーザ光源41A<sub>1</sub>、～41A<sub>m</sub>からゲートスイッチ41C<sub>1</sub>、～41C<sub>M</sub>を介した光がN×1光カブラ41B'で合波され、光アンプ41Dで増幅された後に、1×M光カブラ41EでM分岐される構成などとしてもよい。この場合、各変調器43<sub>1</sub>、～43<sub>m</sub>の前後段等に設けていた各光アンプ42<sub>1</sub>、～42<sub>m</sub>を省略することが可能である。

【0069】

【発明の効果】以上説明したように、本発明は、4つのポートを有する音響光学効果を利用した波長選択フィルタを用いたことにより、従来のAWG等を用いた光分岐・挿入装置のように、伝送路からの波長多重信号光に含まれるすべての波長の信号光を分離する必要がなくなり、波長選択フィルタで必要な波長の信号光だけを分岐または挿入することができるため、簡略な構成で小型化の光分岐・挿入装置を実現できる。また、4ポートのAOTFに代えて3ポートの波長選択フィルタを使用し、後段の光合波部で挿入光を合波するようにすれば、より簡略な構成の波長選択フィルタを用いても上記と同様の効果を得ることが可能である。

【0070】さらに、光増幅手段を設けたことで、光分岐・挿入装置が線形中継器として機能し、また、分散補償手段及び分散補償用光増幅手段を設けたことで、伝送路の分散特性の補償が可能となる。したがって、本装置を使用して伝送特性の優れた光ネットワークを構築することができる。また、光分岐手段や光挿入手段の構成を、処理する信号光の波長及びその数を任意に設定可能としたことにより、使用波長の変更や信号増設等に容易に対応することができ、波長の光挿入手段にも分散補償部及び分散補償用光増幅部を設けたことにより、挿入光の合波された信号光の伝送特性がより優れたものになる。

【0071】加えて、光挿入手段に光源制御部や挿入光

制御部を設けたことにより、挿入に不要な波長光の漏れ込みやコヒーレントクロストークの発生が防止されるようになるため、さらに優れた伝送特性を有する光ネットワークを構築することができる。また、モニタ手段を設けたことで、本装置に入出力される信号光の監視が可能となる。さらに、そのモニタ手段の監視結果に基づいて、波長選択フィルタに送られる選択信号の周波数を調整したり、光挿入手段のパワー調整部で挿入光のパワーを調整することで、本装置から伝送路に送られる各波長の信号光パワーが略一定値に制御されるため、安定したWDM方式の光伝送が可能である。

【0072】加えて、未使用波長光に対応する周波数の選択信号が波長選択フィルタに印加されることにより、未使用波長に生じた雑音等が波長選択フィルタで除去されるため、伝送特性の一層の向上を図ることができる。また、温度制御手段や温度モニタ手段を設けたことにより、波長選択フィルタのデバイス温度の変化の影響が低減されるため、波長多重信号光の波長管理をより正確に行なうことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施形態の構成を示す図である。

【図2】同上第1の実施形態のAOTFの構成例を示す図である。

【図3】本発明の第2の実施形態の構成を示す図である。

【図4】本発明の第3の実施形態の構成を示す図である。

【図5】本発明の第4の実施形態の構成を示す図である。

【図6】本発明の第5の実施形態の光挿入部の構成を示す図である。

【図7】本発明の光挿入部の他の構成例を示す図である。

【図8】従来のAWGを用いた光分岐・挿入装置の構成を示す図である。

【符号の説明】

10, 10' ADMノード部  
11, 11' ADMフィルタ用AOTF  
11A 温度制御器  
11B 温度モニタ  
12, 14, 15, 31, 41D, 42<sub>1</sub>, ~42<sub>m</sub>, 46, 48 光アンプ  
13, 47 分散補償器  
20 RF信号発生器  
30 光分岐部  
32, 41B, 41B', 41E, 45, 51, 52, 52' 光カブラ  
33<sub>1</sub>, ~33<sub>m</sub>, 44<sub>1</sub>, ~44<sub>m</sub>, 49, ~49<sub>m</sub> 波長選択用AOTF  
34<sub>1</sub>, ~34<sub>m</sub> 受信器  
40, 40', 40" 光挿入部

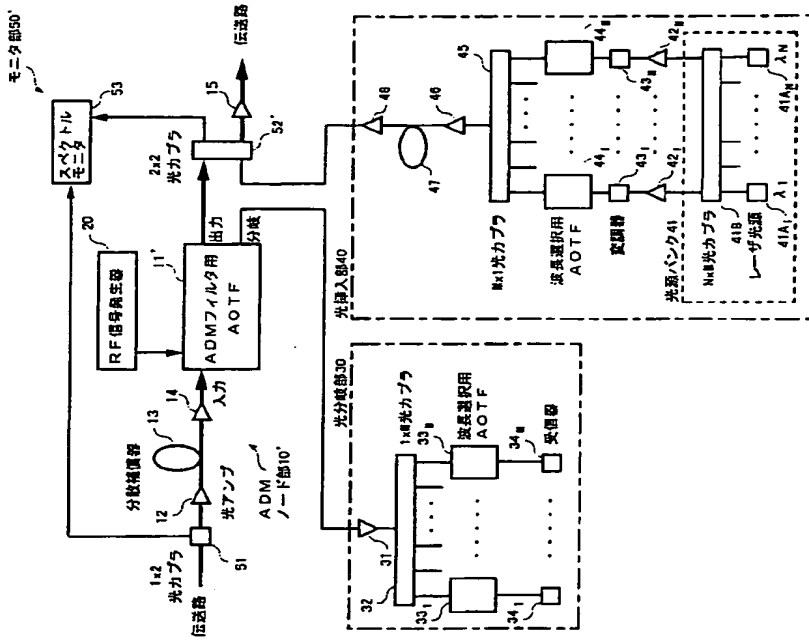
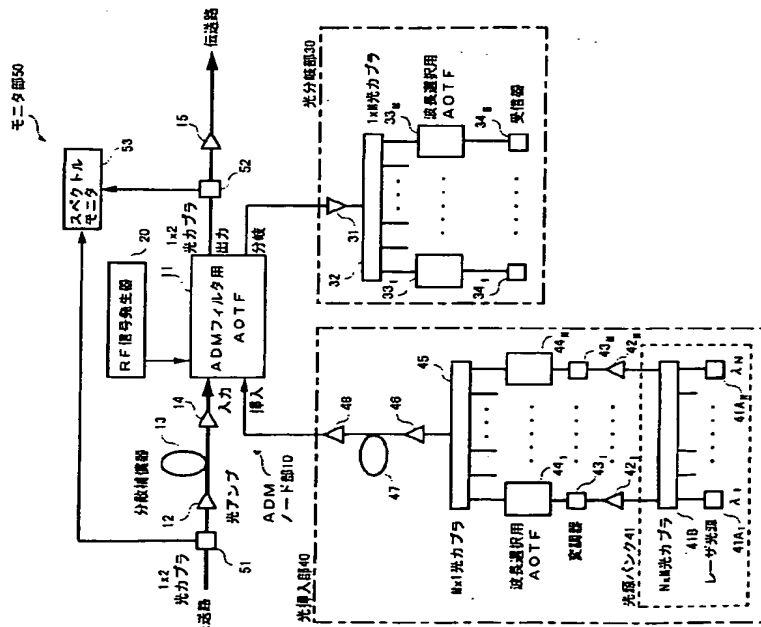


24

23

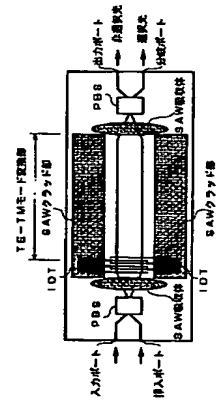
- 41, 41', 41" 光源バンク  
41A<sub>1</sub> ~ 41A<sub>N</sub> レーザ光源  
41C<sub>1</sub> ~ 41C<sub>N</sub> ゲートスイッチ  
42A 光アンプ駆動回路  
43, ~ 43<sub>N</sub> 変調器  
50, 50' モニタ部  
53 スペクトルモニタ

【図1】

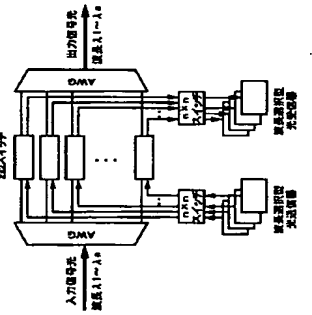


【図3】

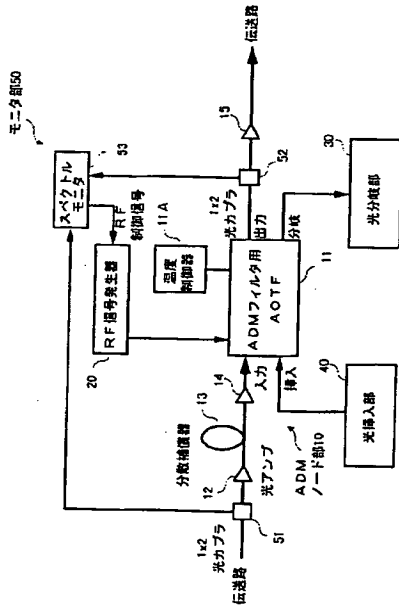
【図2】



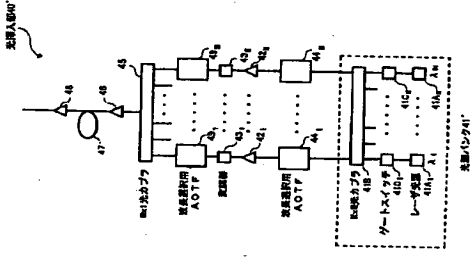
【図8】



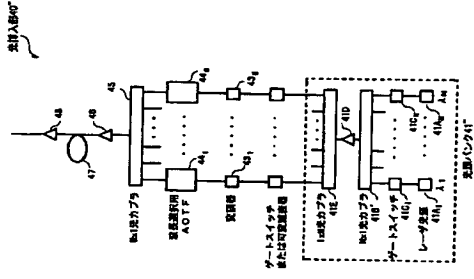
【図4】



【図6】



【図7】



【図5】

